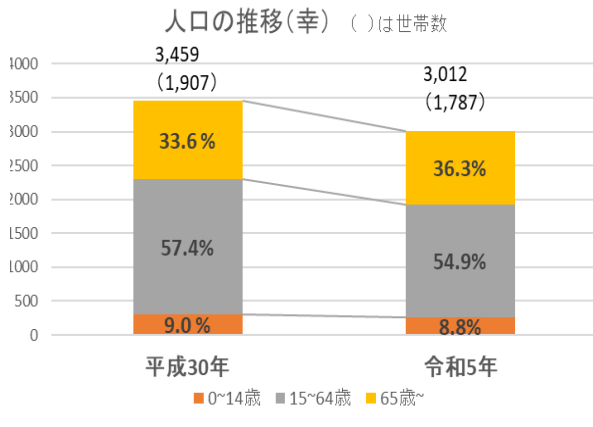


幸 校 区

地域別人口



基礎データ

組織・人的資源	町会自治会数	4
	校区社協役員数	14
	校区社協ボランティア数	17
	民生委員・児童委員数	11
	老人クラブ会員数	292
	いきいきいずみ体操数	3
	おたがいさまサポーター数	2
	高齢者見守り協力事業所数	9
	子ども食堂(子どもの居場所)数	1
対象者数	自主防災組織の有無	有
	ふれあい訪問利用者数	26
	誕生月訪問利用者数	216
	避難行動要支援者登録数	50

ふくしアンケート結果ランキング(抜粋)

こんなまちだといいな	
1.みんなが集まれるイベントやお祭りがあるまち	
1.買物が便利なまち	
2.障がい者の理解が進みバリアフリーなまち	
こんな場所があったらいいな	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.放課後に保護者が帰宅するまで、安全に子どもが過ごせる居場所	1.思いっきり遊べる広い公園や広場
2.高齢者の経験や強みを生かせる場所	2.サッカーや野球などができる運動場
3.子育てを応援してくれる場所	2.体育館やプール
	2. いろいろな遊び道具があって自由に遊べるしせつ
	2. 自由に使える友だちとのたまり場所
興味があるボランティア活動	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.子どもの登下校の見守り	1.赤ちゃんや小学校に入る前の子どもの世話をする
	1. 年下の子どもの遊び相手をしたり面倒をみる
2.子どもの居場所づくり	2.年下の子どもに勉強を教えたり話し相手になる
3.子ども食堂	2. 自然や環境の保ご活動をする

地域での話し合い(ワークショップ)での意見

- ❖ 小学校の統廃合と市営住宅の建て替えなどでまちの形態や住まう人の変化が予想される。そのことも踏まえたまちづくりを進めていこう。
- ❖ 子どもから高齢者までこのまちにあった住みやすさを考えていきたい。

町会中心に住民自治の力をつける新しいまちづくり

私たちの重点取り組み

重点取り組み①

【目 標】 多世代・多様性を理解した居場所づくり

【具体的な取り組み】

- 地域のかたちにあった出張モーニングの拠点を増やし、多くの人が利用しやすい仕組みづくりを行う
- 子どもが地域住民と交流できる拠点を作り、子どもの声をキャッチできる体制づくりを行う
- 町会・自治会など各種団体の役割分担を整理し地域づくりを進める

重点取り組み②

【目 標】 となり近所の声かけと自分の身は自分で守る防災

【具体的な取り組み】

- 『自分の身は自分で守る！』意識を高める啓発活動（研修等も含む）を行う
- 「災害時にはとりあえずこうする」など日頃から習慣化する防災訓練を行い自助・共助の仕組みづくりを行う
- 町会単位での防災に関する取組みを進める

重点取り組み③

【目 的】 みんなが生活しやすいまちづくり

【具体的な取り組み】

- 『一緒に行こう・元気か？』などの声かけあいさつでつながり、地域での顔の見える関係づくりを進める
- 高齢者など、買い物に困っている人がどれだけいるか把握し、新たな助け合いの仕組みについて考える
- みんなが使える社会資源の情報を整理し可視化したものを発信する



幸校区社会福祉協議会

幸校区の活動テーマ

町会中心に住民自治の力をつける新しいまちづくり

重点取組み①

多世代・多様性を理解した居場所づくり

幸校区では、令和6年度に毎月第3水曜日に行っているモーニングサービスの活動場所を小栗の湯に変更し、新たに老人クラブの女性メンバーをサロンボランティアとして起用しました。その結果、安定した活動を行うことができ、毎月20人以上の方が参加しています。また、新たに子ども食堂「ほっとステーション」も立ち上がりました。地域内には子ども食堂「てらこやハッピー」などもあり、地域の方が安心して集える居場所づくりが進んでいます。

モーニングサービス



子ども食堂

重点取組み②

となり近所の声かけと自分の身は自分で守る防災

次年度以降検討していきます。



重点取組み③

みんなが生活しやすいまちづくり

『一緒に行こう・元気か?』などの声かけや毎朝の見守り活動のあいさつなどでつながり、地域での顔の見える関係づくりを進めました。また、福祉のまちづくりを地域各種団体と連携・協働しながら推進し、校区会長会議に校区内各種団体が入り、それぞれの活動を共有する体制を整えました。

朝の見守り活動



令和7年度は…



地域内の各種団体の活動を共有する場を設定し、みんなが使える社会資源の情報を整理して可視化したものを発信することが決定しました。